

(3) 遺跡の発掘と保存

石垣山遺跡の発掘は、遊歩道用地の調査として、昭和57年11月に1回目が行われ(第2ブロック)、昭和58年11月から翌1月にかけて遺存状態の良好な第6ブロックの内容を明らかにすることを目的として2回目の発掘調査が行われました。

その結果、小規模ながら銅製錬の全行程を示す各種遺構がそろって発見されました。これは、国内では最初の発見であり、金属技術の研究上、また、生産遺跡の研究上特筆に値する発見でした。

平成2年になって石垣山遺跡は県立余暇村公園の付属施設として復元・展示されることとなりました。焼釜や吹床など主な遺構は薬品による硬化処理が施され、昔の面影を取り戻し、収集されたカラムや土器などの遺物やその他の貴重な資料も、大勢の人々の目に触れることができるようになりました。



エフリ



トクハ



中国自動車道

滝野・社インターチェンジから約30分。

(国道175号線経由、国道427号線ご利用)

- 大阪方面 吹田インターより約90分/池田インターより約80分
- 神戸方面 宝塚インターから約60分/西宮北インターから約50分
- 福知山方面 春日インターから約40分
- 姫路方面 加西インターから約40分

多可町役場

〒679-1192 兵庫県多可郡多可町中区中村町123 TEL 0795-32-2380

北播磨余暇村公園内



銅精錬所跡展示館

黄銅鉱(銅をとる鉱石)



牡蠣殻状方解石



ヤットコ



お願い
・弁当殻、たばこの吸い殻、紙屑など捨てないで持ち帰るようにしましょう。
・園内でのバーベキュー、火の使用はご遠慮ください。



鉱山に関する遺跡の宝庫

(1) 多可郡と鉱山

西播磨から中国地方へかけての製鉄地帯に対し、東播磨～但馬～摂津の地方は生野 明延 摂津多田にいたる産銅地帯として知られています。その中で多可郡は生野鉱床帯に属し、明治時代には御料局の生野探鉱地七郡(養父・朝来・出石・多可・神東・神西・宍粟の諸郡)のうち特に「鉱産の魁たり」と評された地域でありました。

多可町の鉱山は中区北部にそびえる妙見山と、加美区南部の豊部・多田付近の山塊に集中して見出されます。またこの付近には産銅にかかわる遺跡も多く、古くよりこの地域が有力な産銅地域であったことが知られます。



(2) 遺跡の発見

昭和57年4月、中区「入角山」の石垣山で、県立余暇村公園の建設が着手され、同年6月埋蔵文化財の分布調査が行われた結果、余暇村の中央を流れる小さな谷川を馬蹄形に取り囲んで、推定2万トンに及ぶ大量のカラムの堆積が見出されました。

この牧野地区一帯は古くより鉱山の町として栄えたところで、石垣山遺跡をはじめとして妙見山のあちこちに抗口、ズリ、カラムなどがみられます。

そのほか、生活にかかわる遺跡として建物址、墓地、道標、神社址、井戸などがあります。これら数多い産銅遺跡のなかでも石垣山遺跡は石垣や溝で区画された吹屋をはじめ、吹床、吹子座、焼釜などが見つかっていて、極めて遺存状態のよい複合生産遺跡の典型例として把握できます。